

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和3年2月末	令和3年5月末	令和3年8月見通し	令和3年11月見通し
-149千トン 〔 1906千トン〕 (92.7%)	+67千トン 〔 1973千トン〕 (103.5%)	-17千トン 〔 1956千トン 〕 (99.1%)	-14千トン 〔 1942千トン〕 (99.3%)
2090千トン(109.7)	1946千トン(98.6)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和3年3月末	令和3年6月末	令和3年9月見通し	令和3年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は92,300円。前期比+7,300円。年明けから中小建築物件の需要低迷が続いた。そのため、メーカー値上げの価格転嫁は道半ばで、難しい局面が続いた。流通は販売姿勢を緩めていないが、依然需要の盛り上がり欠ける中、価格転嫁の難しい局面が続いていた。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は102,700円。前期比+10,400円。荷動き好転の兆しもなく、在庫低迷したままだったが、流通は慎重な仕入姿勢を持続したため在庫増にはならなかった。市況も粛々と価格転嫁が進み平均市況が三桁の数字となった。先高感があるため先行手配も散見された。	オリパラが終わり、大型物件はあるものの中小建築案件は思ったほど出ていない。加工は小口中心だが、徐々に増えている。建築が遅れている一方で、土木の需要は増えている。相変わらず流通は慎重な仕入をしていることから在庫は増えておらず、横ばいである。メーカー値上げの転嫁は進んでいるが、採算ラインまでスムーズに行えるほどのタイト感はない。但し、コラムと軽量C形鋼だけは極端にタイトな状況となっている。	秋需の需要期を迎え、徐々に案件も出件されていることから市中の荷動きも多少活発になると予想される。しかし、コラムや高力ボルト不足等の影響により、物件の遅れが生じる可能性もある。メーカーの更なる値上げも予想され、市況は強含みで推移するだろう。そうすると流通は与信を気にしながら価格転嫁も粛々と進めていかなければならない。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

7月の仕入量は148,239トン前月比-10.1%、前年同月比-8.6%、販売量は160,716トン前月比-5.5%、前年同月比-3.7%。仕入量は前月比著減、前年同月比減少、販売量は前月比、前年同月比ともに減少しました。在庫量は211,159トン前月比-5.6%、前年同月比+5.4%、在庫量は前月比減少、前年同月比増加しました。在庫率は131.4ポイントと前月とほぼ変わらず。

建築需要について中小物件は相変わらず低調な状態です。販売量は昨年同月より減少しています。流通は価格転嫁を進めていますが、高値玉の入荷速度などを考慮すると道半ばです。

4. 大阪の動向

（大阪）7月の荷動きはまずまずも、8月は稼働日数が少なく、長雨が続いた事もあり、出荷は減少した。9月も大きく変わらないが稼働日数が増える分、出荷が増えると思われる。これから秋需の時期であり、例年需要は少なからず増加すると期待。自動車関係は半導体不足の影響により生産調整が各メーカーで行われており、需要に対して供給が追いついていない状況で、回復するには暫く時間がかかりそうだが、動き出せば急回復する可能性は高い。建築は大型案件が順調に動いている。コラム・ハイテンションボルト等の材料不足は不安材料であるが中小案件も出てきており、需要は増えてくると予想される。